

地域包括ケアネットワーク No.72

瀬戸内市邑久医師会における地域包括ケアの取り組み

邑久医師会理事 原 雅弘

瀬戸内市・邑久医師会での地域包括ケアの取り組みは、Ⅰ在宅で安心して最期を迎えられる仕組みづくり、Ⅱ認知症対策、Ⅲ糖尿病対策、Ⅳがん対策を、瀬戸内市地域包括ケア実行計画の重点課題とし、医療、介護、福祉、保健、行政等の多職種連携により進められています。

Ⅰ 在宅で安心して最期を迎えられる仕組みづくりとして、地域包括ケアシステム研修会の開催、在宅医療・地域福祉連携担当者会議を重ね、邑久医師会と瀬戸内市民病院の合同研修会等により、病診連携、在宅医療・介護の充実に取り組んでいます。

また、ICTを活用した、医療・福祉・保険・司法関係者と在宅医療の支援内容についての情報を共有、高齢者入所施設合同研修会では、ワールドカフェ方式による意見交換会を開催、「せとうちカフェ」多職種連携のつどいでは、連携・協調を深めています。在宅医療多職種連携研修会では、「認知症ケア治療生活支援」「糖尿病治療」「医療介護同時改正、介護保険の行方」「認知症ケア」「心不全について」等をテーマに知識、理解を高めています。

Ⅱ 認知症対策としては、認知症初期集中支援事業要綱を作成、チームを配置し、精力的に活動しています。邑久医師会認知症サポート医、地域包括支援センター介護支援専門員・社会福祉士、行政の認知症施策担当、トータルサポートセンター保健師、介護施設代表のメンバーで、毎月認知症初期集中支援チーム会議を行い、認知症新規事例、継続事例、モニタリング事例等について検討・協議しながら実績・成果を上げてきているところであります。

認知症地域支援連携推進会議では、「認知症と妄想性障害」と題して、石津秀樹先生の講演を拝聴し、認知症になっても自分の意思が尊重され、住み慣れた環境で暮らし続けるため、地域特性を踏まえた認知症施策を考えながら、早期発見・対応に繋がる医療と生活支援の連携体制、地域支援を推進しています。

Ⅲ 糖尿病対策としては、地域医療連携推進モデル事業として、瀬戸内市における糖尿病等生活習慣病に対する保険・医療体制の推進や地域包括ケアシステムの構築を目指し、医療と保健・保険関係者の連絡会議を開催し、地域の特性を踏まえた予防対策や重症化予防等について検討、糖尿病の保健・医療連携体制づくりを行っています。

Ⅳ がん対策としては、在宅医療看護研修会で、「地域がん診療拠点病院と在宅医療介護連携～アドバンス・ケア・プランニングの取り組み～」をテーマに喜多嶋拓士先生の講演で、がん患者の在宅医療介護を理解し、人生最終段階の本人の意思の大切さを学ぶ機会となりました。

瀬戸内市に、新しい市民病院が開院して3年になりますが、邑久医師会とは、各種講演会・行事の共同開催等、医師会医師との良好かつ円滑な関係が築かれています。市民病院は、一般病床110床のうち、地域包括ケア病床を16床から30床に増床、回復期リハビリテーション病床30床とあわせて「治す医療」に加え、「支える医療」を重視し、在宅療養支援連携連絡会、市民病院・医療連携担当者会議、在宅医療・地域福祉連携担当者会議等が行われ、在宅医療につながる役割を果たしてくれています。邑久医師会として、多職種と連携・協力の上、在宅医療・地域包括ケアを、さらに着実に進めてまいりたいと考えています。